

笑顔あふれる2日間 「こども霞が関見学デー」

霞が関の各省庁が様々なプログラムを用意し、夏休み中の子どもたちに広く社会や国の仕事について理解を深めてもらう「こども霞が関見学デー」が今年も8月2～3日に開催されました。農林水産省へは2日間で延べ7,222人の子どもたちが来場しました。



また、下刈りや間伐といった林業の仕事についてわかりやすく解説した「お山ん画」のパネル展示も行われ、食い入るように眺めている子どもたちがたくさん見受けられました。普段学校で学ぶことの少ない森林や林業、木材の知識に触れる貴重な機会となりました。

林 野庁が毎年開いている人気プログラム「大好きな人へ木のはがきをおくろう！」には今年も多くの子どもたちが参加しました。スギ、ヒノキ、ヒバ、トドマツ、マカバの5種類のツキ板で作られたはがきから1種類を選び、スタンプやクレヨンで親戚や友達に送る手紙を自由に作ってもらいました。樹種ごとの香りや木目の違いに驚き、「どのはがきにしようかな」と楽しみながら選ぶ姿が印象的でした。



特

用林産物であるきのこをPRする「いろいろなきのこにふれてみよう！」も昨年に引き続き実施されました。しいたけやぶなしめじといった普段の食卓でおなじみのきのこを原木や菌床ごと展示し、子どもたちに自由に触ってもらいました。きのこがぎっしりと生えている様子はかなり興味深かったようで、その不思議な光景に笑顔が絶えませんでした。

乾しいたけを小さなおたま1回ですくえただけプレゼントする乾しいたけすくいも実施されました。意外とすくいにすくい乾しいたけをなるべくたくさんおたまに乗せようと奮闘していました。

10種類のきのこから好きなきのこに投票してもらおう「K・N・K・10総選挙」(KINOKOから)も行われました。毎年子どもたちの絶大な人気を集めているのは「なめこ」のようです。



今

年は農林水産省の駐車場にハーベスタを持ち込み、子どもたちと一緒にハーベスタの操縦席に乗って記念撮影ができる「森林ではたらく機械に乗ってみよう！」というプログラムを初めて行いました。また、実際にハーベスタを動かしてキノコの丸太を切断するデモンストラクションが1日に4回行われ、子どもたちが一斉に「ハーベスタ！」と呼びかけると機械が唸りを上げながら動きだし、巧みに丸太を切っていく様子が見られました。都会では普段見ることのできない林業機械の大きさや迫力のある動きに興味津々の様子でした。実演の終了後は切り終えたばかりの丸太の輪切りや鋸くずがプレゼントされ、立ちのぼるヒノキの香りに歓喜する子どもたちで大いに賑わいました。

